

# CEDXM連携で業務効率化を期待

## シーデクセマ評議会

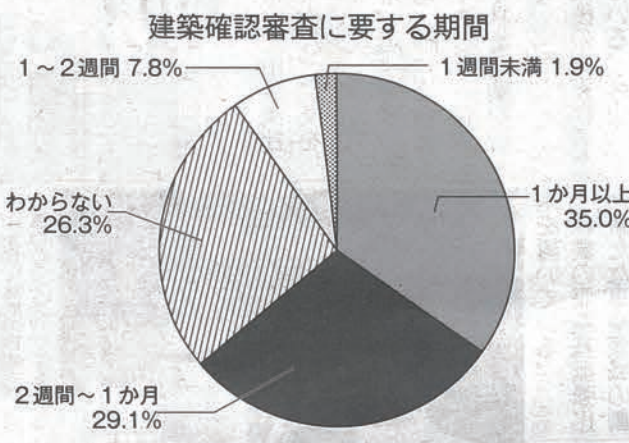
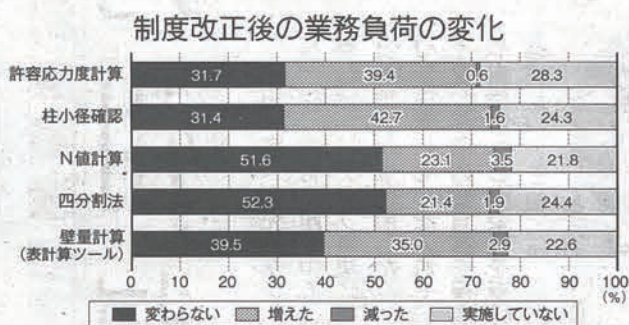
### 建築基準法改正・4号特例縮小で

シーデクセマ評議会(東京都、藤澤好一理事長)は、2025年4月の改正建築基準法施行による建築確認申請業務やプレカットにかかわる業務実態の変化などについてアンケート調査を実施した。

今回のアンケートの回答が多数を占め、建築基準法など制した。増えた業務として度改正とCEDXM連携は「柱小径確認」が最もの実情把握のため、多で、全体では42.7%が業務が増えたと回答。プレカット工場とその設計事務所、ハウスメーカーなど業態ごとに実施した。アンケートは、宮川工機、福井コンピュータの取引先に答えている割合は地場は設計事務所40.3%、JBN・全国工務店協会、耐震性能見設計事務所50%、工務店45.9%。一方、プレカット工場では「増えた」が29.1%にとどまり、「実施して」が43%と最も多かった。そのため、柱小径の確認は、主に住宅会社側で対応している実態がうかがえる。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%。業種別で見ると「増加した」と回答した割合は、設計事務所40.3%、地場ハウスメーカー35%、大手ハウスメーカー33.3%、工務店38.4%で、プレカット工場は26.1%とあまり多くない。「審査機関からの質疑事項が細かくなっ」は「厳格化、詳細化、審査機関の差」など指摘がある一方で「変化なし」の回答も多かった。

「審査機関からの質疑事項が細かくなっ」は「厳格化、詳細化、審査機関の差」など指摘がある一方で「変化なし」の回答も多かった。プレカット工場では「効率的な住宅CAD/CAMデータ連携標準化委員会の活用」が期待されている。



今回の調査は、今春の法改正・4号特例縮小に伴う関係業界の対応状況について幅広く実施したものです。総括として、実情は、審査に要する業務増大とその処理期間の延長でした。

### プレカットの構造図さらに重視

藤澤好一 理事長

その主な要因については、プレカット工場ではアンケート結果に見られるとおりですが、その根拠は設計図書間の整合性、根拠となるデータの信頼性の担保にあるといえます。これらに対応するため、AIを活用した事前チェックサービスなども始まっていますが、基本は信頼できる情報生成と信頼性の検証への活用も広がっています。

「柱小径」は「増えた」が39.4%、「変わらない」が31.4%、「減った」が0.6%、「実施していない」が28.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

「柱小径の確認」は「増えた」が42.7%、「変わらない」が31.4%、「減った」が1.6%、「実施していない」が24.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

「柱小径の確認」は「増えた」が42.7%、「変わらない」が31.4%、「減った」が1.6%、「実施していない」が24.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

「柱小径の確認」は「増えた」が42.7%、「変わらない」が31.4%、「減った」が1.6%、「実施していない」が24.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

「柱小径の確認」は「増えた」が42.7%、「変わらない」が31.4%、「減った」が1.6%、「実施していない」が24.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

「柱小径の確認」は「増えた」が42.7%、「変わらない」が31.4%、「減った」が1.6%、「実施していない」が24.3%。

「壁量計算(表計算ツール)」は「増えた」が35%、「変わらない」が39.5%、「減った」が2.9%、「実施していない」が22.6%。

## 2026年4月からBIM図面審査が始まります

### BIM図面審査にはIFCファイルの添付が必須になります

BIM 図面審査対応建築意匠 CAD

プレカット CAD (構造図)

CEDXM ファイルで連携

PDF

IFC

CEDXM を有効に活用しましょう

特定非営利活動法人シーデクセマ評議会